

関西大学ピア・コミュニティによる 多様な学生支援 継続的実践の試み

松田 優一（関西大学）

本稿では、大学でのピア・サポート活動において国内で有数の歴史を持つ関西大学の継続的実践について考察します。

1. 関西大学におけるピア・サポート活動の概要

関西大学では、学生が豊かな人間力（21世紀型学生気質）を備え、学生が主体性を持って構築するキャンパス環境を育むとともに、卒業後に21世紀の知識基盤社会を支える「社会人基礎力」を備えた人材の養成を目指してピア・サポート活動が行われています（日本学生支援機構、2008）。

関西大学におけるピア・サポート「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ～関西大学で育む21世紀型学生気質～」は、文部科学省の2007年度学生支援GP（Good Practice）に採択されたことをきっかけに取組が開始されました。学生が求める学生支援を学生自らが実践することを目指した「学生総ピア・サポーター体制」（関西大学では「サポーター」と語尾を伸ばさない用語を使用しています）の構築を図り、またその企画・運営にあたる「ピア・コミュニティ」の創設と育成に向けて取り組まれてきました。2010年度をもって文部科学省からの財政支援期間は終了しましたが、その後も継続的・発展的に取組が継続されています。

2. 関西大学ピア・コミュニティの活動内容

2008年度に発足した「ピア・コミュニティ運営本部」「国際コミュニティ“KUブリッジ”」「ピア・スポーツコミュニティ」、2009年度に発足した「KUサポートプランナー（第1部入門編4の図1参照）」「KUコアラ」「KUサポーターズ」「ぴあかんず」、2010年度に発足した「i.com」、2018年度に発足した「関西大学学生PRチーム“SUGaO”」の9つのピア・コミュニティ（表1）があり、合計約100名の学生がピア・サポート活動を行っています。

表1 関西大学ピア・コミュニティの活動内容

コミュニティ名	活動内容
ピア・コミュニティ 運営本部	ピア・コミュニティ間の連携や情報共有を促す役目を担う。合宿や研修などの企画・運営を行い、ピア・コミュニティ間の交流を促進する他、大学内でのピア・コミュニティの普及や各ピア・コミュニティの活動支援を行う。
国際コミュニティ “KUブリッジ”	留学生の学生生活の充実を図るため、主に国際交流イベントの企画・運営を行い、留学生と日本人学生との交流を促進している。加えて、国際部と連携した活動も行う。
ピア・スポーツ コミュニティ (PSC)	“スポーツ”をキーワードとし、関西大学の学生としての帰属意識や母校愛を高め、より充実した学生生活を実現してもらうべく、在学生や卒業生への応援活動を行う。
KUサポート プランナー (KUSP)	「素晴らしい活動をしているにもかかわらず、発表する場所がない」「多くの関西大学の学生と一緒に活動したい」「授業以外の学びの機会を実現、提供したい」と思っている学生の思いを形にすべく、各種の企画・運営を行う。
KUコアラ	関西大学の学生の図書館利用促進を目指すため、学生の視点から、図書館での特集本展示や講演会等の企画を行う。
KUサポーターズ	学生による学生のための学生相談を実施。また、年に数回講演会やワークショップなどの企画・運営を行う。
びあかんず	知られていない関大生の苦労や努力などのドラマを発掘して、大学への関心を深めてもらうことを目指し、SNS等のウェブ媒体での広報の活動を行う。
i.com	ITスキル（主に映像・ウェブ・ポスターなどを作成する技術）を駆使し、学生に技術支援する活動を行う。
関西大学学生 PRチーム “SUGaO”	関西大学の魅力を学生ならではの目線で社会に向けて発信すべく、ウェブ、SNSを利用して情報発信を行う。

関西大学ピア・コミュニティホームページ

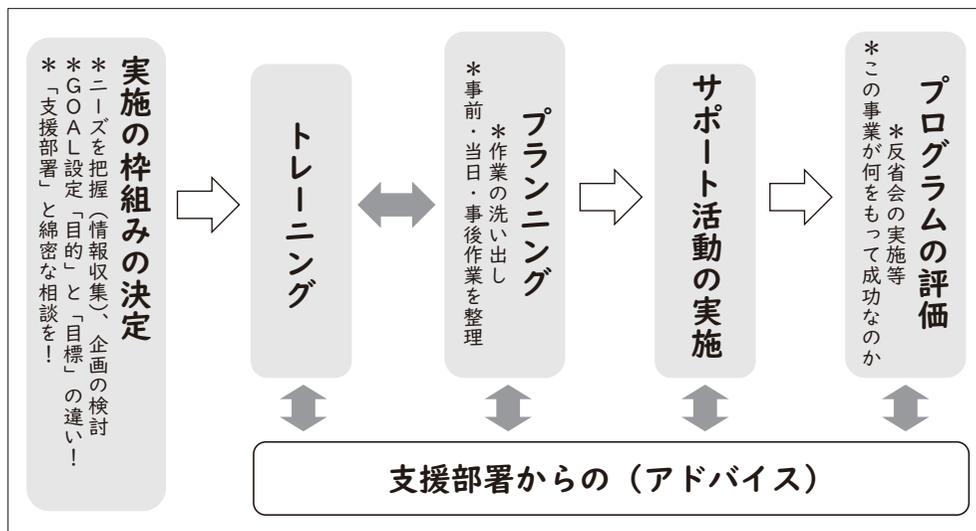
(<http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp/common/pdf/training.pdf>) をもとに筆者作成

3. 大学による支援体制について

ピア・サポート活動は、専門的な知識・知見・経験を持つ者によるスーパーバイズのもとで行われる仲間同士の支援活動です。その前提のもと、活動の手続きの支援については支援部署の担当職員が行い（図1）、日々のピア・サポーターへの助言等については学生センター内に設置されている「学生支援室」のティーチング・アシスタント（以下、TA）が行っています。

また、TAは学生と大学がうまく連携できるよう橋渡しの役割も担っています。これにより、人事異動等によるピア・サポート担当職員の変更や他の業務の繁忙の影響を最小限にしています。加えて、TA制度は、継続したプログラムのアセスメントを可能にしています。一部の者を除いて大学職員

図1 関西大学のピア・サポートの流れ（プロセス）



関西大学（2009）

はアセスメントに関する知識や技能を持ち合わせていません。そのため、ピア・サポーターおよび支援を受けた学生の成長をデータとして示すことが困難であり、ピア・サポート活動の意義を大学内で示すことが困難な大学が多いと考えられます。関西大学ではTAとして、取組開始の当初から心理系の学問を専攻する大学院生がかかわることが多く、アセスメントに関する知識と技能を継承してきました。ピア・サポート活動の効果に関するデータが蓄積され、大学内で共有されることで、取組のエビデンスが明確になり、活動の継続性を高めることにつながっているといえます。

4. ピア・サポーターの育成について

関西大学では、ピア・コミュニティにおける学生の位置づけを「研修生」「ピア・サポーター」「シニア・サポーター」の3つに分け、それぞれ認定条件を設けることで、学生のステップアップを明確化し、ピア・サポート活動を通じた学びがより深められるようにしています（表2）。

また、学生が仲間を支援するために必要となる知識やスキルを学び、身につけ、実践することができるよう、「ピア・サポートって何だろう?」「自己理解」「コミュニケーション」「プランニング」からなる関西大学ピア・サポート研修が実施されており、これらのすべての受講修了が、ピア・サポーターの認定要件となっています。

それに加えて、スキルアップ講座を実施しています。スキルアップ講座では、「ピア・コミュニティをマネジメントする」「フェイルファスト (fail

表2 関西大学ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ

	研修生	ピア・サポーター	シニア・サポーター
基礎資格	学部生／大学院生	学部生／大学院生	学部生／大学院生
保有するスキル・知識等	ピア・サポーターの認定条件を満たしておらず、単独でピア・サポート活動を行うことはできない者。	ピア・サポーターの認定条件を満たし、ピア・サポート活動を行うために必要なスキル・知識等を持つ者。	シニア・サポーターの認定条件を満たし、ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を持つ者。
活動の範囲	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動、および学生によるピア・コミュニティの継承に関すること。
認定条件		「関西大学ピア・サポート研修」の受講修了。	ピア・サポーターとしての活動歴（1年以上）と、「スキルアップ講座」5つ以上の受講修了。

関西大学ピア・コミュニティホームページ「ピア・サポーターの育成について」
(<http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp/common/pdf/training.pdf>) より

fast) ～失敗を恐れず、チャレンジすること～」「関西大学を知る」「自分の中にある常識をぶっ壊せ！～リフレーミングという手法～」「傾聴トレーニング」「ほめる達人講座」「思いやりを形にする」が実施され、これらのうち5つ以上の受講修了がシニア・サポーターの認定要件の1つとなっています。研修でのインプットと活動でのアウトプットのサイクルを継続して行うことで、ピア・サポート活動を通じた学生の成長を支援しているのです。

*

関西大学のピア・サポート活動は、ピア・サポーターが十分な成長を遂げられる育成システムが基盤となり、10年以上、活動が継続されてきました。ピア・サポーターはもちろんのこと、担当する教職員が入れ替わるなかで継続できた背景には、TAの大学院生の存在が大きいといえます。

ピア・サポート活動の実施体制は、各大学の状況に応じてさまざまな可能性があると思いますが、スタートの段階で将来的に活動を誰がどのように継承し、発展させていくか、検討しておく必要があるでしょう。

*本稿は、筆者作成の桜美林大学大学院アドミニストレーション研究科修士論文「ピア・サポートを支援する大学職員の育成に向けた課題」の一部を加筆・修正したものです。

〈引用・参考文献〉

関西大学（2009）「ピア・サポーター養成講座配付資料」

日本学生支援機構（2008）『平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」事例集』